日野原重明 Shigeaki Hinohara

60歳から始まる新しい人生への挑戦

10p

日野原重明（ひのはら　しげあき）

聖路加国際病院理事長・同名誉院長。1911年（明治44年）生まれ。1937年京都帝国大学医学部卒業。1941年聖路加国際病院内科医に。内科医長、院長代理、院長を経て現職。聖路加看護学園理事長、財団法人ライフ・プランニング・センター理事長も務める。1999年文化功労者、2005年文化勲章。1954年に民間病院として初めて聖路加国際病院に人間ドックを開設。1994年には日本で初めての独立型ホスピス「ピースハウス病院」を設置。患者参加の医療に向けての提言、終末医療の普及や成人病に代わる生活習慣病という言葉を提言するなど、常に日本の医療の先端を走ってきた。著書『生きかた上手』（いきいき刊）はミリオンセラー。

鎌田實 Minoru Kamata

がんばれない人のためにがんばり続けた医師

16p

鎌田實（かまた　みのる）

諏訪中央病院名誉院長・作家。1948年（昭和23年）生まれ。1974年東京医科歯科大学医学部卒業、長野県の諏訪中央病院内科医に。1988年同病院院長に就任。2005年から同病院名誉院長に。同時に東京医科歯科大学臨床教授、東海大学医学部非常勤教授も務める。1991年にNPO法人・日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)、2004年に日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）を設立し、代表として国際医療支援活動に取り組む。著書は『がんばらない』『あきらめない』『なげださない』『いいかげんがいい』（以上、集英社）『へこたれない』（ＰＨＰ研究所）など多数。

村上和雄 Kazuo Murakami

遺伝子スイッチを オンにする生き方

22p

村上和雄（むらかみ　かずお）

筑波大学名誉教授、財団法人国際科学振興財団理事、同バイオ研究所所長。1936年（昭和11年)生まれ。1958年京都大学農学部卒業。1963年京都大学大学院農学研究科修了。同年米国オレゴン医科大学研究員、京都大学農学部助手、米国バンダービルド大学医学部助教授を経て、1976年に筑波大学応用生物化学系助教授、1978年教授に。1984年筑波大学遺伝子実験センター長、1994年筑波大学先端学際領域研究センター長。1996年、日本学士院賞を受賞。1999年筑波大学名誉教授に就任し、現在に至る。25万部を超えるベストセラーとなった『生命の暗号』（サンマーク出版）など多数の著書がある。

石坂公成 Kimishige Ishizaka

IgEの発見 ―連理の枝に咲いた花

30p

石坂公成（いしざか　きみしげ）

日本学士院会員、ラホイヤ・アレルギー免疫研究所名誉所長。1925年（大正14年）生まれ。1948年東京大学医学部卒業。国立予防衛生研究所免疫血清室長（1953～1962年）。カリフォルニア工科大学化学部研究員（1957～1959年）。1963年小児喘息研究所（デンバー）免疫部長。1970年ジョンス・ホプキンス大学医学部教授、免疫学部長を経て1989年ラホイヤ・アレルギー免疫研究所所長。1996年より名誉所長。1985年、米国免疫学会会長。1972年、米国パサノ賞（照子夫人と共同受賞）。1974年、日本学士院恩賜賞、文化勲章受章。1999年、勲一等瑞宝章受章。2000年、日本国際賞受賞。1997年、日本学士院会員に選任される。

杉村隆 Takashi Sugimura

がん―内なる敵に勝つための挑戦

36p

杉村隆（すぎむら　たかし）

国立がん研究センター名誉総長、東邦大学名誉学長。1926 年（昭和元年）生まれ。1949年東京大学医学部卒業。1950年同放射線医学教室助手、1954年財団法人癌研究会癌研究所助手所員を経て1957年米国に。国立癌研究所、ケース・ウェスタン・リザーブ大学に留学。1960年に帰国し、癌研所員。1962年国立がんセンター研究所に。以後、研究所長､総長を歴任。東邦大学長(1994～2000年)。1976年日本学士院賞・恩賜賞。1978年文化勲章。1981年米国パートナー癌研究学術賞。1996年フランス共和国国家功労章オフィシエ。1997 年日本国際賞などを受賞。日本学士院会員。米国国立アカデミー、オランダ学士院、スウェーデン学士院の外国人会員。

金澤一郎 Ichiro Kanazawa

脳を見つめ、人間を想う

42p

金澤一郎（かなざわ　いちろう）

宮内庁皇室医務主管、日本学術会議会長。1941年（昭和16年）生まれ。1967年東京大学医学部医学科卒業。東京大学医学部附属病院神経内科助手、ケンブリッジ大学薬理学教室客員研究員、筑波大学臨床医学系神経内科講師、同助教授、同教授などを経て、1991年東京大学脳研神経内科教授に。1997年東京大学大学院医学系研究科神経内科学教授を経て、2002年東京大学を退官、東京大学名誉教授、国立精神・神経センター所長に就任。宮内庁皇室医務主管に。2003年国立精神・神経センター総長。2006年、国立精神・神経センター名誉総長、日本学術会議会長。2007年より国際医療福祉大学大学院教授。

松澤佑次 Yuji Matsuzawa

脂肪の燃焼に、情熱を燃やした研究人生

48p

松澤佑次（まつざわ　ゆうじ）

財団法人住友病院院長、大阪大学名誉教授。1941年（昭和16年）生まれ。1966年大阪大学医学部卒業。1991年大阪大学医学部第二内科（現大学院医学系研究科分子制御内科）教授就任。2000年大阪大学医学部附属病院病院長就任。2003年大阪大学名誉教授、財団法人住友病院院長に。日本臨床分子医学会理事長、日本動脈硬化学会理事長、日本肥満学会理事長を歴任。2000年日本医師会医学賞、2004年武田医学賞（「脂肪細胞研究を基盤にした生活習慣病の解明」）。2006年紫綬褒章受章。同年、国際肥満学会から「内臓脂肪症候群の概念の確立とアディポネクチンの発見」に対し、歴代8人目のヴィレンドルフ賞が贈られた。

石川烈 Isao Ishikawa

歯周病が国民病でなくなる未来を見つめて

56p

石川烈（いしかわ　いさお）

東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 招待教授。1940年（昭和15年）生まれ。1965年東京医科歯科大学歯学部卒業、母校大学院在籍中にスイス国ジュネーブ大学教官を経験、帰国後母校助手を経て、母校歯学部助教授（1980-1984年）、母校歯学部教授（1984-2000年）。2000年より母校大学院教授、2006年に母校名誉教授、東京女子医科大学先端生命医科学研究所客員教授に。2008年から現職。2007年からは北京大学口腔医学院客員教授も務める。専門分野は歯周治療系歯学、歯周組織再生学、歯科用レーザー学。1998年名誉博士号(Doctor Honris Causa)、2005年日本歯科保存学会賞、2006年日本歯周病学会賞、2008年日本歯科医学会会長賞。

小宮山彌太郎 Yataro Komiyama

インプラントの憂い インプラントの希望

62p

小宮山彌太郎（こみやま　やたろう）

ブローネマルク・オッセオインテグレイション・センター院長。1945年（昭和20年）生まれ。1971年東京歯科大学卒業。1976年東京歯科大学大学院歯学研究科修了。母校助手、母校講師を経て、スウェーデン王国イエテボリ大学医学部及び歯学部客員研究員として、ビヨン・ヘデゴード教授（Björn Hedegård）及びペル・イングヴァール・ブローネマルク教授（Per-Ingvar Brånemark）に師事（1980-1983年）。1983年に帰国後、母校において、日本で初めてオッセオインテグレーテッド・インプラント療法を開始。助教授となった1990年に辞職し、ブローネマルク・オッセオインテグレイション・センターを開設。東京歯科大学臨床教授、神奈川歯科大学客員教授、昭和大学歯学部客員教授も務める。

須田立雄 Tatsuo Suda

ビタミンDと 骨の研究に捧げた50年

68p

須田立雄（すだ　たつお）

日本学士院会員、日本学術会議連携会員、昭和大学名誉教授、埼玉医科大学ゲノム医学研究センター客員教授。1935年（昭和10年）生まれ。1960年東京医科歯科大学歯学部卒業、母校大学院（1960-1964年）、ウィスコンシン大学留学（1968-1971年）、母校歯学部助教授（1971-1977年）、昭和大学歯学部教授（1977-2000年）、埼玉医科大学ゲノム医学研究センター副所長（2001-2006年）を経て現職。専門分野は基礎歯科医学、骨代謝学、ビタミン学。1997年米国骨代謝学会（ASBMR）ニューマン賞、1998年紫綬褒章、1999年朝日賞、2001年日本学士院賞受賞、2003年パリ大学（フランス）名誉博士号を受ける。2007年に日本学士院会員に選任される。2010年瑞宝重光章受章。